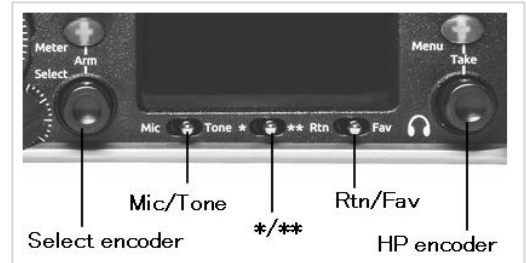


Sound Devices 8-Series の の操作に関する TIP (コツ)

Shortcuts Operation of 8-Series

2020/10/6

8-Series (Scorpio, 888, 833) は、ロケーション作業に便利なショートカット操作が多く実装されています。詳しくはユーザーガイドの Front Panel Shortcuts の章を参照していただくとして、ここでは、ポピュラーなコマンドを御紹介します。(これを覚えれば、作業もテキパキ!) 以降の説明では、ボタンを押しながらエンコーダを押すという操作を、“ボタン” + “エンコーダ” と表記します。記号は、ボタンを []、エンコーダを { }, トグルスイッチを < > で表記します。



[解説のまえに一言]

ショートカット操作は Firmware バージョンに依存します。以降の解説は V7.00 で実装されているものです。今後のファームウェアアップデートで予告なく仕様が変わる場合があります、将来的にこれから解説する内容と異なる可能性があることを御了承ください。

[解説・フロントパネル編]

1. トラックアーム [Meter] + {Select}

8-Series のトップ画面 (Stop を押すとトップ画面に戻れます) は、レベルメーターと一緒にトラックアーム状況が示されます。録音されるトラックは数字 (か L, R) のボックスが赤くなります。ショートカット操作で赤色を消すとそのトラックは録音されなくなります。録音中にアーム操作して赤ボックスを増やすと、テイクがスプリットされて、追加されたトラック数で録音が継続されます。

2. L インデント・トーン {Select} + <Tone>

トーン信号をトラックと出力に入れる際、L チャンネルだけ On/Off をくりかえすモードです。外部機材に L と R の出力をケーブル接続したとき、L と R が逆になっちゃうこと、ありますよね。L インデント・トーンなら外部機材のメーターで L, R が正しく接続されているとスグにわかります。

3. テイクリスト [Menu] + {HP}

録音したテイクは、テイクリストで確認できます。録音されたファイルを確認するには、テイクリストから FILES を <*/**> トグルで実行すると 3 つのメディアにアクセスできます。もう一度 <*/**> でテイクリストに戻れます。

4. ネクスト・テイク {STOP}

レコーダーが停止中に、トランスポート・コントロールのジョイスティックを {STOP} すると、画面に次の録音されるテイク・ネームを確認できます。

5. フェールス・テイク {HP} + {REW}

収録中に誤って Rec 操作してしまい、慌てて Stop したけど、明らかに不必要な WAV データは残るし、テイク番号が 1 つ増えちゃってカメラとか他の機材とテイク番号がズレちゃって困りますよね。このショートカットで最後に録音したテイク (とオーディオデータ) は、FALESTAKES フォルダに移動されて、テイク番号は 1 つ若くなります。

6. シーンネーム増加 {HP} + {FF}

デフォルト設定では機能しませんが、シーンネームの末尾を 1,2,3... と増やすためのショートカットです。例えば、デフォルトのテイク名が “T01” の場合、SCENE に好きな単語 (例えば DOG) をエンターすると、テイク名が “DOG1T01” となります。(“T” は Take の T ですが、FILENAME FORMAT で ハイフン“-” か プラス“+” に変えることもできます。) SCENE をエンターしたら次に、Scene Increment Mode を “Disabled” から “Numeric” にします。ショートカット {HP} + {FF} を操作すると、“Increment Scene Name?” と尋ねられ、OK すると次の録音から DOG1T01 → DOG1T02 → DOG1T03... とテイクが増えていきます。ロケの内容が変わったら、ショートカット {HP} + {FF} により、“DOG1” の末尾が増えて “DOG2” になります。次の録音から DOG2T01 → DOG2T02 → DOG2T03... とテイクが増えていきます。テイク番号がリセットされて、テイクカウントもわかりやすくなっています。

7. サークルテイク (ユーザーカスタマイズ機能)

テイク名(ファイル名)に@マークをシンボルとして付ける機能があります。例えば、T01.wav をサークルテイク実行すると @T01.wav とリネームされます。コンピュータでファイル管理するときに見つけやすくなります。テイクリストから Edit して "Not Circled" を "Circled" に変更できます。これはちょっと手間なので、<*/**> トグルスイッチにユーザーカスタマイズして、Circle Take を登録すれば、録音停止後にトグルスイッチ 1 発でマーキングできます。なお、Bluetooth 通信で iPad タブレットにインストールされた SD-Remote からでもサークルテイクできます。SD-Remote は、大きな画面に表示されたテイクリストからランダムに再生確認しつつ、サークルテイクをつけられるのでファイル管理がとても快適です。

8. スクラブ {HP}

再生中、再生ポーズ中に {HP} エンコーダを押し続けるとスクラブ・モードに入ります。画面のタイムコード文字が青色になり、HP エンコーダを右に 1 ノッチ回すと、1/8 速度で再生開始します。回すノッチ数により、1/8, 1/4, 1/2, x1, x2, x4 と再生速度が変わります。左に HP を回すと逆再生します。

9. キューマーク {Select} + {FF}

WAV ファイルに時間軸上のマークポイントをつけることで再生時にジャンプできます。メニュー設定 Wav Format で "RF64" から "BWF" に変更しないと、この機能は使えません。キューマークは、Broadcast Wav Format のオーディオ・ファイルにメタデータとして Cue マークが登録され、8-Series だけでなく、Reaper や Adobe Audition などの DAW で読み込める、とのこと。録音・再生中にショートカット操作してキューマークを登録すると、メーター画面の右上に "Q01" と表記され、最高 99 個まで作成できます。再生中(再生ポーズ中)に、{REW} か {FF} でキューポイントにジャンプ(ロケート)できます。不要なキューポイントは、そのキューに移動してから {Select} + {REW} で削除できます。(Undo できないので御注意ください。)

10. PFL モニター {HP}

インプットチャンネルの設定画面に入ると、ヘッドフォンモニターが PFL に切り替わります。HPF とか Comp の単独の効き具合をモニターするには便利ですが、パンニングの微調整は PFL では確認できませんよね? PFL を解除して元々のヘッドフォンプリセットをモニターするためには、{HP} ノブを押してください。

11. チャンネルネーム <PFL>

チャンネルにネームは自由に編集できます。インプットチャンネルの設定画面に <PFL> トグルで入り、もう一度その <PFL> 倒したまま保持してください。画面にバーチャル・キーボードが表示されて、チャンネルネームを編集できます。

12. メーターズーム [Meter] + {HP}

レベルメーターのスケール(ボトム)を変更するショートカットです。メニュー Meters から変更可能です。デフォルトのメーターボトムは -50dBFS ですが、-40dB と -20dB の計 3 段階に変更できます。

[解説・ASCII キーボード編]

市販の USB キーボード(Windows 用)で、8-Series をリモートコントロールできます。詳しくはユーザーガイドの USB Keyboard の章を参照していただくとして、ここではポピュラーなコマンドを御紹介します。

1. Rec/ Stop / Play [Ctrl+R] / [Ctrl+S] / [Space]

Ctrl キーを押しながらアルファベットの R を押すと録音開始されます。ここでは、Ctrl + R と表記します。

2. 数字キー 1,2,3...

1 を押すと、Input-1 PFL トグル操作と同じです。0 で Input-10 にアクセスできます。Ctrl+1 で Input-11 にアクセスできます。

3. 矢印キー [↑] [↓]

上下のキーで HP ノブ回転操作をエミュレートします。

4. トラックアーミング [Alt + Enter]

Ctrl キーを押しながら上下の矢印キーでメーター画面のカーソルを移動できます。アーム On/Off したいトラックにカーソルを合わせて、Alt + Enter でアーミングを切り替えられます。

以上、ショートカット・キー操作のクィックガイダンスでした。